令和6年度　東生野中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果･課題と今後の取組について―

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１　「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

１　全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数（人）	平均正答率（%）		平均無解答率（%）	
			国語	数学	国語	数学
３　年	学校	95	48	41	4.9	13.4
	大阪市	―	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	―	58.1	52.5	3.9	11.3

令和6年度　東生野中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

調査結果から

令和6年度　全国学力学習状況調査より

〈国　語〉
【成果と課題】
平均正答率は48％であり、大阪府の平均より9％、全国の平均より10．1％低い結果となった。観点別の平均正答率は、知識・技能が53．2％、思考・判断・表現が45％だった。問題形式ごとの平均正答率は、選択式が54．2％、短答式が53％、記述式が26％であり、特に記述式問題の平均正答率は、大阪府の平均正答率より16．2％、全国の平均正答率より19．5％低い結果であった。
記述式の問題の中で、2四（本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する）の無回答率は4．2％であったのに対し、1四（話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く）は14．7％、3四（表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する）は24．2％、と高く、「自分の考えを文章化すること」「表現を工夫して創作文を書くこと」に苦手意識を持つ生徒が多いことがうかがえた。

【今後に向けて】
国語科においては、説明的文章や文学的文章の読解だけでなく、それらの文章の内容を受けての自分自身の考えを文章化する取り組みや、文章に含まれる表現の工夫に目を向けさせ自身の文章力の向上に繋がるよう指導していきたい。また、漢字や語彙に関する知識を問われる問題で確実に得点できるよう、過去の学習内容についても繰り返し復習の機会を設け知識の定着を図っていく。

〈数　学〉
【成果と課題】
問1　について全国平均34.8に対して本校は12.6である。
本校の誤答の傾向として、nを使って解答するということは把握しているが、正しく記載できていないというものが多い、授業内でのぼんやりとした内容だけが定着し、なぜそのような形で表現できるかなどの理解が徹底できていない。
問3　について全国平均68.3に対して本校は57.9である。
　回転移動した図形の各頂点がどこに移動するかを答えるだけの問題であるが、正答者が6割にも満たない。説明をすればすぐに理解できるが、改めて問われると正答できないものが多いように思う。問題演習の少なさが原因としてある。
問4　について全国平均65.3に対して本校は51.6である。
　この問いは言い換えれば「傾きを大きくするとグラフはどのように変化しますか」となる。こう聞かれれば正答できる生徒が本校では増えると思う。しかし、このような問われ方に対応できないのは文章理解する能力と数学的知識がつながっていないのだと考える。本テストの場合は選択肢問題であり、上記の問いは記述式である。一般的に選択肢問題の方が回答しやすいように考えるが、生徒の数学学習に対する困り感は数学的知識がテストでの聞かれ方と乖離しているところにあるように思う。

問6―（2）　について全国平均35.9に対して本校は14.7である。（部分点も含む）
　本校の回答の傾向として、与えられた式をとりあえず計算するということがみられる。問いに対する見通しを立てて計算を進めるなどの訓練が少ない。文章を読んでどのような式を得る必要があるか、どの式を得たいのかという感情を刺激できていない。
問7－（1）　について全国平均74.3に対して本校は64.2である。
　最頻値を求めよという問いに対しては回答方法が明確であるため、回答を完成できる生徒が6割をこえている。しかし、全国平均に対し10ポイント下回る結果になっているのは演習不足が原因である。

問8－（1）　について全国平均83.4に対して本校は80.0である。
　この問いが全体平均が10ポイント下がる本校の生徒のうち8割が正答できていることには教科書、ワークなどでこのように問われる場面多いことが要因だと考えられる。
問8－（2）　について全国平均17.1に対して本校は12.6である。
　この問いの正答率の低さは、1行目から3行目までの文章が難解であること、また、ア、イの選択肢が「同じ説明をするための2つの方法」であることの理解がしにくいことによるものだと考える。教科書ではイの考え方の便利さを強調して指導するため、細部でアの式から値を求めていくというところまで習熟させられていない。
問8－（3）　について全国平均76.9に対して本校は68.4である。
　この問いに関しても比較的に教科書で強調して指導している内容である。

問9－（1）について全国平均25.8に対して本校は11.6である。
　合同の証明を書くだけの問いである。この正答率の低さは授業内指導に課題があると考える。
問9－（2）について全国平均26.7に対して本校は14.7である。
　この問いは全問での合同に着目すること、正三角形の固定による外角の120°　が決定することに着目することが必要になる。これは、選択肢から消去法的に推測・計測していくことでも正答にたどり着ける。おそらくそのように考えた生徒が多いように思う。ここではその思考をたどれる思考力をはぐくめていたかどうかが本校の正答率の低さにつながっていると考える。

【今後に向けて】
本校の数学科においては、基礎学力の定着に重点を置き指導に当たっている。問2や問5への正答がかなり低いことからもわかるように、まずは数学的知識を定着させる必要のある生徒が40～60％いることが推測できる。この層の生徒に基礎を演習により定着させる時間をまずは確保すること。また、数学的知識が定着してる40％ほどの生徒に対しては数学的言語活動の充実と、問われ方にかかわらず数学的知識を利用できるようになるための教材研究と授業実践を続ける。

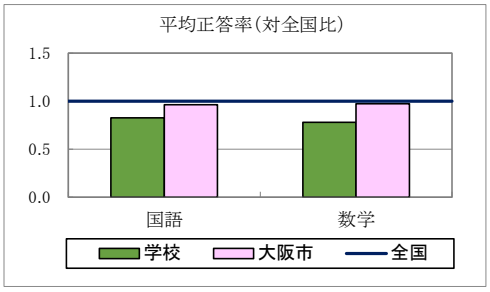
令和6年度　東生野中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

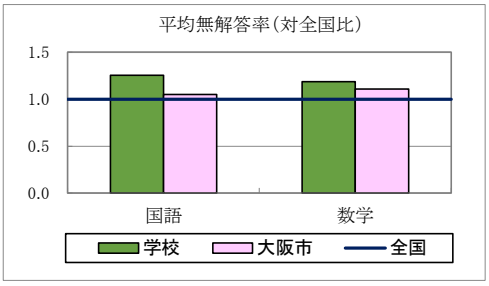
全国学力・学習状況調査　教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	48	41
大阪市	56	51
全国	58.1	52.5

平均無解答率(%)	
国語	数学
4.9	13.4
4.1	12.5
3.9	11.3



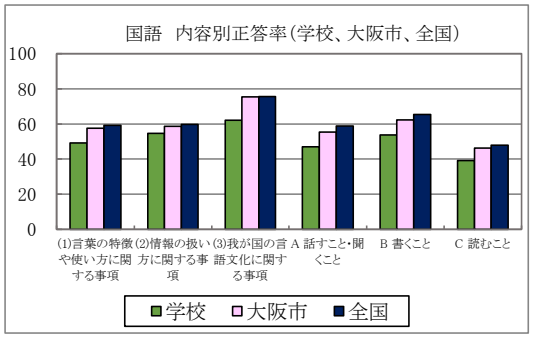


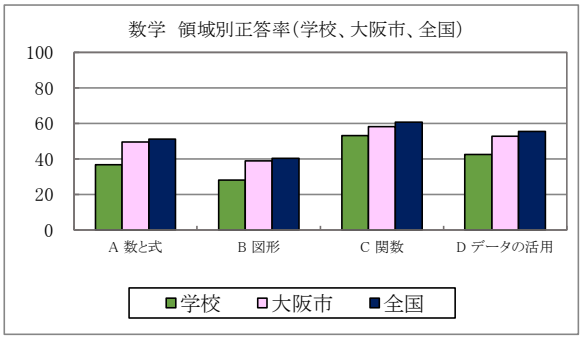
【 国 語 】

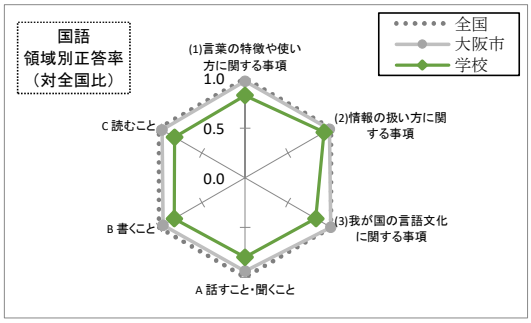
学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	3	49.1	57.5	59.2
(2)情報の扱い方に関する事項	2	54.7	58.5	59.6
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	62.1	75.3	75.6
A 話すこと・聞くこと	3	47.0	55.2	58.8
B 書くこと	2	53.7	62.2	65.3
C 読むこと	4	39.2	46.2	47.9

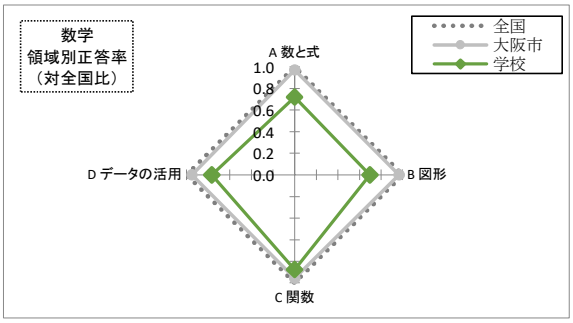
【 数 学 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	36.8	49.6	51.1
B 図形	3	28.1	38.9	40.3
C 関数	4	53.2	58.1	60.7
D データの活用	4	42.6	52.8	55.5







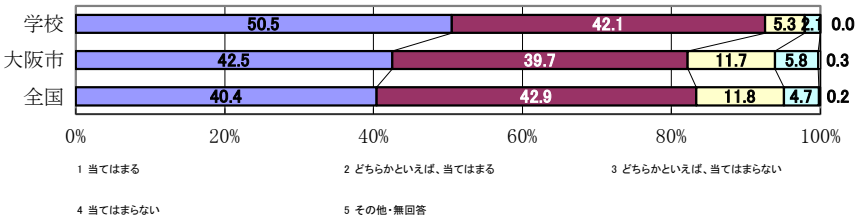


令和6年度　東生野中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

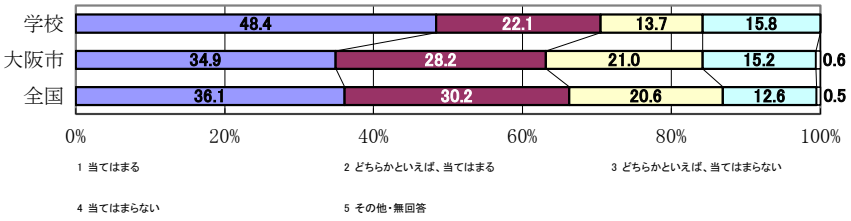
生徒質問より

1　2　3　4　5　6　7　8

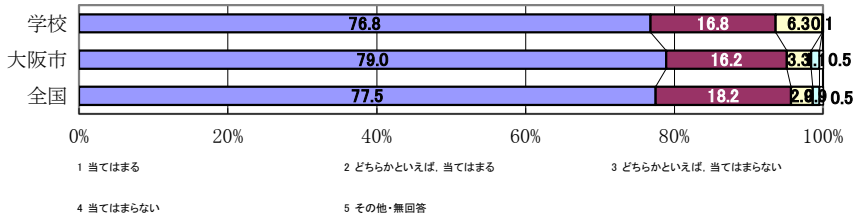
質問番号	質問事項
9	自分には、よいところがあると思いますか



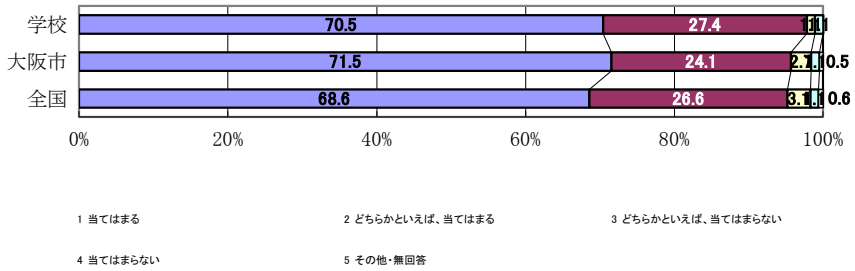
11	将来の夢や目標を持っていますか



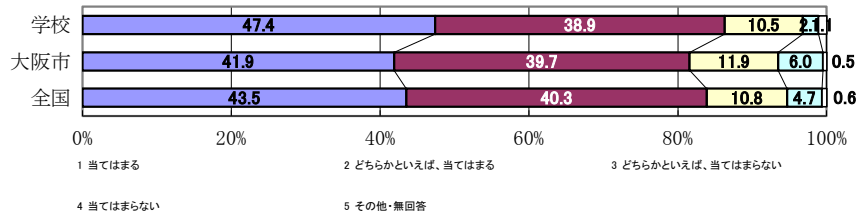
13	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



15	人の役に立つ人間になりたいと思いますか



16	学校に行くのは楽しいと思いますか

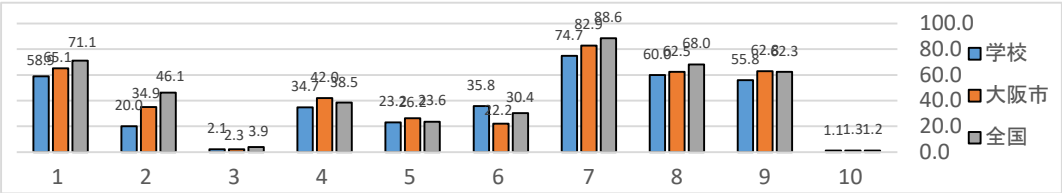


令和6年度　東生野中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

生徒質問より（26）

質問番号
質問事項

26
放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか（複数選択）



1 学校の部活動に参加している

2 家で勉強や読書をしている

3 地域の活動に参加している（地域学校協働本部や地域住民などによる学習・体験プログラムを含む）

4 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している

5 習い事（スポーツに関する習い事を除く）をしている

6 スポーツ（スポーツに関する習い事を含む）をしている

7 家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている

8 家族と過ごしている

9 友達と遊んでいる

10 1～9に当てはまるものがない

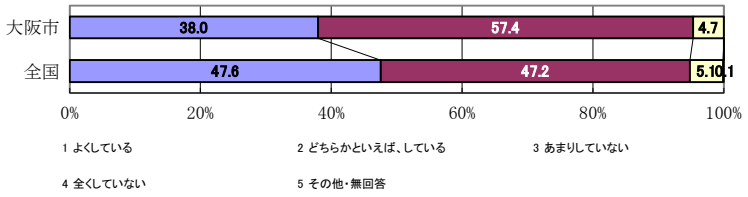
令和6年度　東生野中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

学校質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

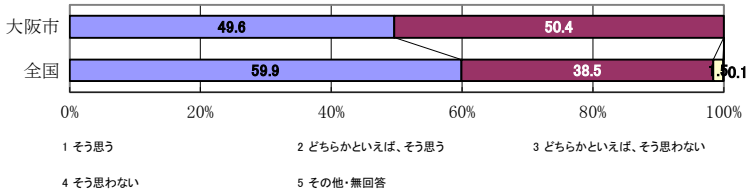
質問番号	質問事項
16	授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

学校　「よくしている」を選択



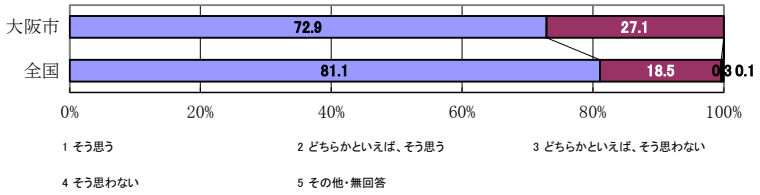
20	学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組んでいますか

学校　「そう思う」を選択



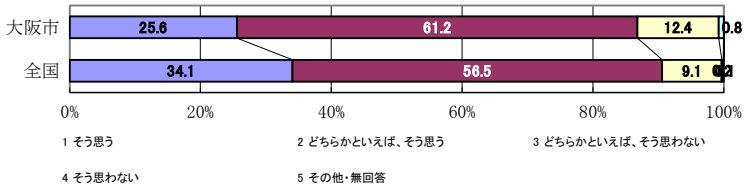
21	各生徒の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしていますか

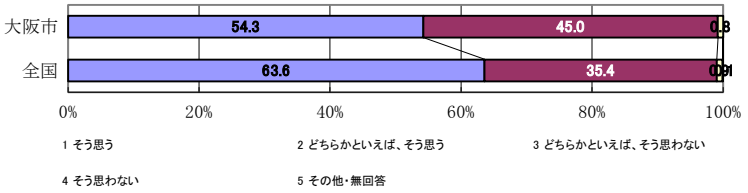
学校　「そう思う」を選択



22	今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教職員が多いと思いますか

学校　「そう思う」を選択



23	教職員が困っているとき、互いに相談できる雰囲気があると思いますか

学校　「そう思う」を選択